

### 第32回 合剤

合剤とは読んで字のごとく2つ以上のくすりが一緒に入っている物です。最近、この合剤の発売が活発になってきました。古くはST合剤であるバクトラミン（スルファメトキサゾールとトリメトプリムの合剤）や漢方薬、高カロリー輸液なども合剤の一つです。古くからある合剤は、一緒にすることによる相乗効果や副作用の軽減、調製のわずらわしさを解消するためなどの目的でつくられたものですが、2005年に合剤を認めるための規則が緩和され、以前は認められなかった併用されやすい物を合わせることで一度に飲む薬の数を減らすための合剤を作ることができるようになりました。

今回取り上げるのは、特に発売ラッシュの降圧薬です。高血圧は、一つの薬で十分に下がらないときは増量するよりも、他の効き方をする薬を組み合わせた方が血圧を下げる効果が高いといわれています。高血圧の人は何種類かの薬を組み合わせることで飲むことが多くなるため、合剤を作ることのメリットが大きいわけです。

それでは、当院に採用されている合剤についてみていきます。

プレミネント：「PREMIER」（最初の、主役の）と「EMINENT」（傑出した）を合わせて「PREMINENT」と命名（ニューロタンとヒドロクロロチアジド（HCT）の合剤）

エカード：Effective（期待した効果が得られる）Candesartan（カンデサルタン）And Reduced（減らした）Diuretic（利尿剤）のそれぞれの頭文字（プロブレスとHCTの合剤）

コディオ：combinatin 意味を持つ接尾後のコ（Co）、ディオ（DIO）はディオバンを示し、ディオバンとヒドロクロロチアジドの2剤の配合錠であることを表している。（ディオバンとHCTの合剤）

ミコンビ：ミカルディス（Micardis）と利尿薬の配合錠（Combination Tablets）であることから、ミカルディスのミ（Mi）と配合錠のコンビ（Combi）を取って（Micombi）（ミカルディスとHCTの合剤）

ここまでの4種類はARBと利尿薬の組み合わせの薬です。高血圧の薬には相性のいい組み合わせがいくつか知られており、ARBと利尿薬もその一つです。次からの2剤はARBとカルシウム拮抗薬を組み合わせた薬です。

レザルタス：24時間さらなる高血圧を達成して治療に貢献するという「成果（Results）」を期待して「レザルタス：REZALTAS」と命名（オルメテックとカルプロックの合剤）

エックスフォージ：“EX”の文字に「Extra」の力強さを、また“FORG”＝「鍛造する」という言葉で、ARBであるバルサルタンとCa拮抗薬のアムロジピンを配合した強力な降圧作用を有する薬剤であることを表現した造語。（ディオバンとアムロジピンの合剤）

今後も、合剤の発売は続いていくのではないかと考えられます。血圧の薬だけでなく、長い間、数種類の薬を飲むような疾患には合剤が作られていくのではないのでしょうか。次回は、HIVのくすりです。